



風水害について

▶ 風雨による危険度のチェックポイント

雨や風は降雨量や風速で強さのランクが分けられています。ニュースや気象情報などで数値を耳にした場合は、下記の被害の目安を確認して、防災準備にとりかかりましょう。

1時間雨量による雨と被害の目安

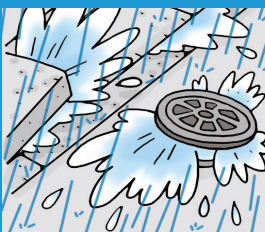
※降水量が1時間1mmとなる水の量とは、1m²の面積に、1mm(1ℓ)降ること。

やや強い雨 (10~20mm/h)



ザーザーと降る雨。地面一面に水たまりができます。長く続く場合は注意が必要です。

強い雨 (20~30mm/h)



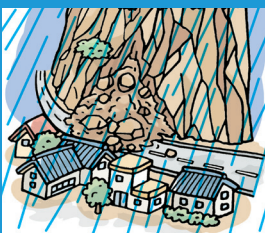
どしゃ降り。側溝や下水があふれ、小川の氾濫、がけ崩れの心配もあります。

激しい雨 (30~50mm/h)



バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようになり、規制も行われます。

非常に激しい雨 (50~80mm/h)



滝のように降り、地下に雨水が流れ込む場合や、土砂災害なども発生しやすくなります。

猛烈な雨 (80mm以上/h)



息苦しくなるような圧迫感があり、雨による大規模災害が発生するおそれがあります。

風と被害の目安

※風速は10分間の平均風速です。最大瞬間風速は平均風速の約1.5倍~3倍以上になることがあります。

やや強い風 (10~15m/s)



風に向かって歩きにくくなります。取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始めます。

強い風 (15~20m/s)



風に向かって歩けず、転倒する人も出ます。ビニールハウスが壊れるなどの被害が出ます。

非常に強い風 (20~25m/s)



鋼製シャッターの破損や、風で飛ばされた物で窓ガラスが割れるおそれもあります。

非常に強い風 (25~30m/s)



ブロック塀が壊れたり、取り付けの不完全な外装材が飛ぶ危険があります。

猛烈な風 (30m/s以上)



屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊なども発生するようになります。

気象庁から記録的短時間大雨情報が発表されるほどの雨や豪雨が続き、河川が氾濫して浸水被害が発生する可能性が高くなります。河川の水位に合わせて危険レベルが想定され、避難情報の発令につながります。普段から右のインターネット情報などから河川の水位をチェックしておきましょう。

雨量・水位情報をチェック

国土交通省 **川の防災情報**

PC・スマートフォン版
<https://www.river.go.jp/>

川の防災 検索



<p>水防団待機水位 (指定水位)</p> <p>大雨などにより、この水位をこえると水防関係機関が水防活動の準備に入ります。</p> <p>テレビ、ラジオなどの最新の気象・洪水情報に注意し、警戒を強めてください。また、避難に時間を要する人(高齢者、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は避難の準備を整えましょう。</p>	<p>氾濫注意水位 (警戒水位)</p> <p>洪水注意報の基準となり、災害のおそれがある水位です。この水位をこえると水防関係機関が出動します。</p>	<p>避難判断水位</p> <p>高齢者等避難の発令基準となる水位です。</p> <p>避難に時間を要する人とその支援者は避難を開始し、その他の人は避難の準備を整えましょう。避難の際は危険な場所は通らないようにしましょう。</p>	<p>氾濫危険水位 (特別警戒水位)</p> <p>避難指示等の発令基準となり、家屋浸水等の被害を生じる氾濫のおそれがある水位です。</p> <p>速やかに避難所へ避難しましょう。外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。</p>
--	---	--	---

氾濫の種類

<p>氾濫型の内水氾濫</p> <p>短時間強雨などで、雨水の排水能力が追い付かず発生する浸水。河川周辺地域以外の場所でも発生する。</p>	<p>湛水型の内水氾濫</p> <p>河川周辺の雨水が、河川の水位上昇に伴い排水できずに発生する。堤防の高い河川周辺限定で発生する。</p>	<p>外水氾濫</p> <p>河川の水位が上昇し、堤防を越えたり破堤する事で、堤防から水があふれ出した状態。</p>
---	---	---

土砂災害について

一般的に土砂災害は、降雨や融雪で地中の水分が増して地盤が緩み、さらに長雨や集中豪雨が続いた時に発生するとされています。次のような現象を察知した場合は、直後に土砂災害が起こる可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、関係機関へ通報してください。

こんな「前ぶれ現象」に注意!



- 河川の異常な濁り
- 流木が発生
- 降雨時での水位の激減
- 河川内の転石の音
- 地鳴り・ゴーという音
- 土臭いにおい



- 湧き水量の増加
- 湧き水の濁り
- 湧き水の増加
- 表面流発生
- 小石がぼらぼら落下
- 湧き水の濁り
- 新たな湧き水の発生
- 小石がぼらぼら落下
- 亀裂発生、斜面のせり出し
- 湧き水の停止・噴き出し



- 湧き水量の増加
- 湧き水の枯渇
- 井戸水のにごり
- 亀裂・段差の発生・拡大
- 斜面・構造物のせり出し
- 樹木の傾き、根の切れる音
- 山鳴り・地鳴り
- 地面の振動

※地すべりの予測は技術的に困難であり、土砂災害警戒情報の発表対象となっていないので注意してください。

土砂災害の種類

土石流



山や川の石や土砂が、大雨などにより水と一緒に激しく流れ下る現象。

急傾斜地の崩壊 (がけ崩れ)



雨や雪どけ水、地震などの影響によって、急に斜面が崩れ落ちる現象。

地すべり※



雨や雪どけ水が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象。

逃げ方を覚えましょう



土石流

土砂の流れる方向に対して直角に避難!

土石流は速度が速いため、流れを背にしていたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して直角に逃げないようにしましょう。



がけ崩れ

早めに避難!

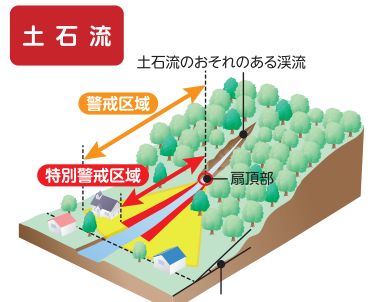
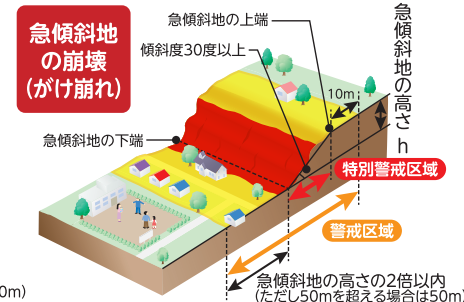
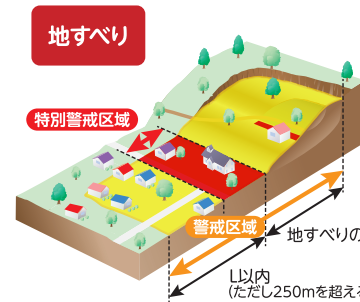
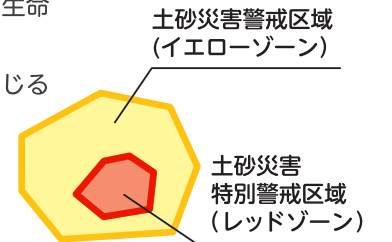
がけの高さの2倍以上の距離に避難!

がけ崩れは一瞬で起こるため、早期避難の判断が重要です。緊急時には、がけの高さの2倍以上の距離に逃げたり、室内の安全な場所(がけから離れた部屋や2階など)に避難しましょう。

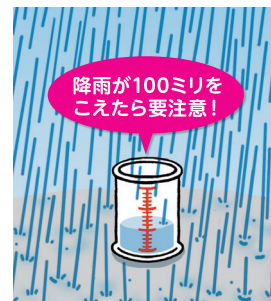
「土砂災害警戒区域」および「土砂災害特別警戒区域」とは

地図中に表示されている **土砂災害警戒区域** は、「土砂災害が発生した場合、住民の生命又は身体に危害が生じるおそれのある区域」です。さらに、**土砂災害特別警戒区域** は、「建築物に危害が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域」です。

! 土砂災害警戒区域にお住まいの方は、大雨のときには警戒避難が必要となる可能性があります。注意しましょう。



土砂災害を事前に予測するには?



雨に注意する

土砂災害の多くは雨が原因で起こります。1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら、十分な注意が必要です。

土砂災害警戒情報に注意する



「土砂災害警戒情報」とは、大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時、自治体が避難指示等を発令する際の判断や、住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。早期避難の判断に役立ててください。

竜巻・突風・雷に注意

竜巻

竜巻による被害は、強風による建物の倒壊、車の転倒、樹木の破損などがあります。竜巻は発生時間が短く、非常に局所的な現象で予測が難しいのが特徴です。鉄筋コンクリート造のビルなど、近くの頑丈建物に避難するか、逃げ込む時間がない場合は、建物の物陰に入って身をかがめましょう。

突風

竜巻が気流の収束によって発生する現象であるのに対し、突風は上空から降りてきた空気が地面にぶつかって周辺に水平に広がる発散性の強風です。



気象庁による雷注意報

! 「雷注意報」は積乱雲によってもたらされる落雷や雷(ひょう)、竜巻や突風などによる被害の恐れがある場合に発表されます。

安全な場所への避難

- 外にいるときは、家の中に(鉄筋、鉄骨の建物は安全性が高い)外出中の場合は、車の中に避難します。
- 簡易な建物や樹木からは2~4m以上離れるようにします。雷が落ちた場合、雷が飛び移る「側撃」の危険性があります。

外出先での注意

- 広い場所にいるときは姿勢を低くしてしゃがみます。(グラウンド・ゴルフ場など)
- 長いもの(釣竿・傘・バットなど)は頭より高くしないようにします。
- 落雷の危険性があるので、大きな木には近づかないようにします。

避難の心得①

▶ 災害などで発令される避難警戒レベル情報

災害時にとるべき行動を5段階の「警戒レベル」でお知らせします。



※身の危険を感じたときは**警戒レベルに関わらず避難**してください。また、必ずしも**レベル1から順に発令**されるとは限りません。

! 警戒レベル5 緊急安全確保 が発令された場合

これまでに経験したことのないような、危険が差し迫った異常な状況にあります
ただちに**「命を守る行動」**をとってください!

あなたの避難経路は？

近年の水害では、避難途中で被災するケースが多く、避難場所までの安全な経路の選択が非常に重要です。

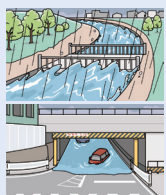
下記に留意して、マップ上に避難経路を想定し記入してみましょう。

また、実際に避難経路を歩いてみて、危険がないか事前に確認しておくことも、重要になります。

避難経路の注意点

危険箇所を避ける!

- ◆ 河川や用水路のそば、土砂災害の危険のある場所
- ◆ アンダーパスや地下道路 (特に日ごろ浸水する場所)



事前の経路確認と早めの避難!

実際に避難経路を歩き、安全で避難しやすい経路と所要時間を確認しましょう。実際に避難する際は、できるだけ浸水が始まる前に余裕をもって避難しましょう。



避難は原則徒歩で!!

車での避難は緊急車両の通行の妨げや、交通渋滞をまねき、浸水すると動けなくなります。ただし、避難情報が出る前の早期の避難は、車の使用も有効です。



車で避難する場合の注意

- ・高齢者や障がいのある方、妊婦や乳幼児のいる家庭などは、特に早期に移動する。
- ・高架下やアンダーパスなど地面より低い場所を走らない。

▶ あなたの家の「マイ・タイムライン」

避難にかかる行動予定を「マイ・タイムライン」と呼んでいます。下の図にあなたの避難のタイムラインを、家族それぞれの避難にかかる時間とあわせて記入してみましょう。

避難情報 など	わたしと家族の行動	行動例
1 早期注意情報		父・母・兄 (中学生) 祖父 (70代) わたし (小学3年)
2 大雨・洪水注意報 自主避難など注意の呼びかけ(町)		テレビのデータ放送で情報収集を始める
		お兄ちゃんが携帯電話を充電する(30分)
		母さんが非常持ち出し袋を確認する(10分)
		みんなで避難経路を再確認する(5分)
		お母さんが叔父さんに電話(5分)
3 高齢者等避難		避難開始 (お母さん、わたし、お爺ちゃん)
		避難にかかる時間 (20分)
		避難完了
		避難開始 (お父さん、お兄ちゃん)
		避難にかかる時間 (10分)
		避難完了
4 避難指示		
5 緊急安全確保 大雨特別警報 / 氾濫発生情報		

大雨・洪水警報 / 氾濫警戒情報

土砂災害警戒情報 / 氾濫危険情報

「警戒レベル4」までに**全員避難!**

この時点で危険な場所から避難を完了していない場合はその付近で、取り得る最大限の安全確保を図ること!!
安全を確保できるとは限らないので、警戒レベル4までに必ず避難を!

メモ(例)
非常持ち出し袋 (玄関横納戸にあり)
おじいちゃんメガネ 忘れずに!!

あなたの家の避難方法

避難先によって、避難する時の方法や、避難にかかる時間は異なります。あらかじめ避難場所に応じた避難方法を確認しておきましょう。

避難場所が () の場合

避難の方法: 自動車 徒歩 ()
 避難にかかる時間: _____ 分
 避難のタイミング: ()

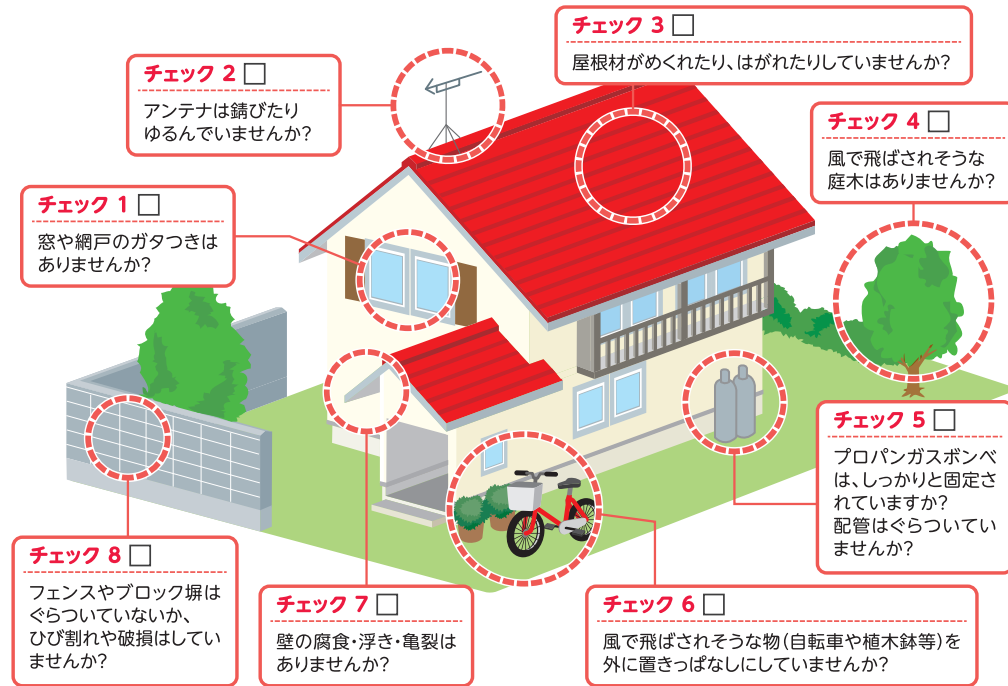
避難場所が () の場合

避難の方法: 自動車 徒歩 ()
 避難にかかる時間: _____ 分
 避難のタイミング: ()

避難の心得②

▶ わが家の防災チェック

台風や集中豪雨では強風や激しい雨が降るため、時として家屋への浸水・損壊、河川氾濫など様々な被害が想定されます。風水害に備えて日頃の安全対策をしっかりと行いましょう。**☑ 自宅をチェックしてみましょう!**



▶ 早期避難の重要性

逃げ遅れで被害が拡大

過去の大規模災害において「被害を拡大させた要因のひとつ」として指摘されるのが「**逃げ遅れ**」です。風雨が強まると、避難する際にも危険な状況になりますので、その前に避難しましょう。早期避難であれば、移動手段の選択幅が増え避難に余裕が生まれます。

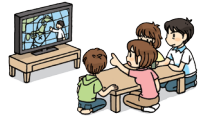
⚠ 「自分のいる場所は大丈夫」、「周りが避難していなかったから」など、非常時には心理的要因が作用するので注意しましょう!

避難しても被害がないこともあります。そのときは「何事もなく良かった。」と無事を確認しましょう。避難しなくて被害にあうことは避けられます。油断や過信は禁物です。命を守るための行動をしましょう。

大雨時の早期避難の判断ポイント

最新情報を常にチェック

台風や突然の豪雨等が発生した場合、進路予測や被害予想のより正確な情報をテレビ・ラジオ・インターネット等で収集しましょう。また、いつ起こっても対応できるように避難準備をしておきましょう。



浸水が始まる前に避難

自分が住んでいる地域や近くの川の上流で、豪雨や長雨が続けている場合は要注意です。特に、高齢者や障がいのある方など避難に時間がかかる方は、早めに避難することが大事です。



暗くなる前に避難

大雨が予想される時は、明るいうちに避難しましょう。暗くなってからの避難は視界も悪く、陥没している道路や側溝などに気づかない場合があります。



▶ 避難行動判定フローを確認

災害時に、避難行動を冷静に判断するのはなかなか難しいことです。家族全員で災害時の避難行動を下記のフローチャートを見ながら確認しましょう。事前に自宅の位置がどのような状況になり、どのように避難すればよいか分かります。

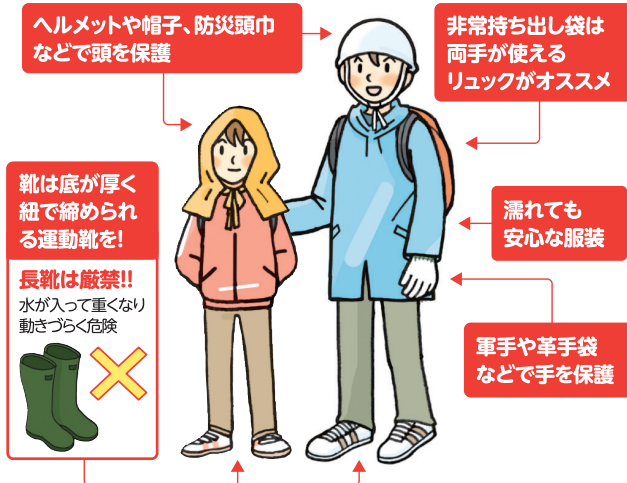


避難の心得③

▶ 避難するときの心得

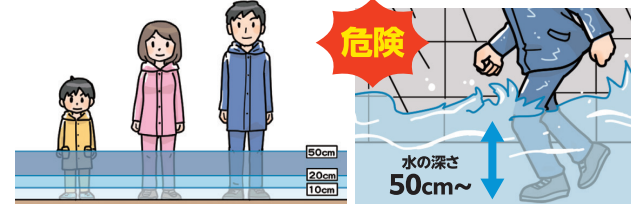
避難時の服装

荷物は少なく、動きやすい服装で避難しましょう。



歩ける深さに注意!

歩行可能な水深の目安は、ひざ下くらい(約50cm)までです。水深が腰まであったり、浅くても水の流が速い場合は無理をせず、高い場所(2階以上)に避難し救助を待ちましょう。



流れが速いと約20cmの深さでも危険です

足もとに要注意!

道路が浸水していた場合、水面下は水が濁っているため、どんな危険が潜んでいるかわかりません。長い棒や傘などを杖代わりにして水中の安全を確かめながら進みましょう。



ペットはケージに入れて

ペットを連れて避難場所へ避難する場合、食べ物や飲み物などをご準備のうえ、ケージに入れてください。ペット受け入れ可否は、各避難場所にお問い合わせください。



2人以上で避難する!

様々な事態が想定されますので、単独や夜間の移動は避け、できるだけ明るい時間に避難しましょう。



危険な場所へ近づかない!

河川や用水路、がけ、ため池などの様子を見に行くのは大変危険です。絶対に近づかないでください。



避難が遅れたら...

もし、避難が遅れ危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物のできるだけ高い所に逃げましょう。



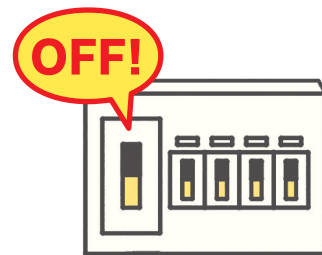
ガスの元栓を閉める

避難する前にガスの元栓を閉め二次被害を防ぎましょう。



ブレーカーを落とす

停電しているときでも必ずブレーカーを落としてから避難してください。



浸水したらすぐ外へ!

水深が約30cm前後に達すると、車のエンジンが停止する可能性があります。車が浸水した場合は、すぐに外に出ましょう。



▶ 避難について

立ち退き避難

災害が発生する前に、危険な地域から安全な指定緊急避難場所、親せきや知人の家などに徒歩で避難しましょう。避難先については、事前にしっかり検討して決めておきましょう。「立ち退き避難」が避難行動の基本です。

避難先

指定緊急避難場所

災害の危険から身の安全を確保するために避難する場所として、あらかじめ町が指定した施設・場所です。



親せき・知人宅・宿泊施設

避難所での3密を避けることから、親せきや知人宅、ホテルなどの宿泊施設への分散避難を検討しましょう。



屋内安全確保

ハザードマップ等で以下の3つの条件に該当する場合は、自宅に留まることも可能です。



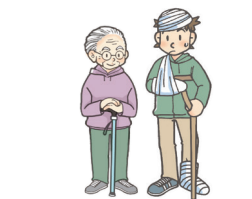
屋内安全確保の3つの条件

- ① 浸水や土砂災害エリアに入っていない。
- ② 想定浸水深より住んでいる場所が高い。
- ③ 水・食料等の備えが十分で水が引くまで我慢できる。

※土砂災害の危険がある区域では立ち退き避難が原則です。

要配慮者への思いやりを

高齢者や障がい者、傷病者、幼児、妊産婦、外国人、旅行者などは避難に時間がかかったり、情報や状況を迅速に把握できない場合があります。災害時にはそのような要配慮者に気を配り、地域で協力しあって支援しましょう。



高齢者・傷病者

- 正しい情報を伝える
- 不安を取り除くように声をかける
- 手を貸したり、おぶって避難



障がい者

- 介助の手助けを
- 耳が不自由な方には、筆談や身振りに対応



妊産婦・幼児

- 手荷物を持つ等の手助けを
- 子どもがはぐれたり、ケガをしないよう気にかける



外国人

- 正しい情報を伝える
- 言葉が通じない場合は身振りや絵で会話を

避難生活の心得

災害時に不特定多数の人が集まる避難所。新型コロナウイルス感染症の対策を含め、お互いの心くばりや思いやりが必要です。お互いに気持ちよく健康に過ごすために、これらのことを心がけましょう。

ルールを守ろう



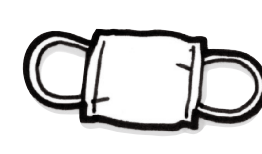
消灯時間や食料の配給時間、居室スペースの定めなどさまざまな決まりごとを必ず守りましょう。

自分が使用するものを持参



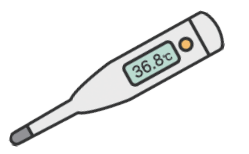
自分が使うもの、食べるものは持参しましょう。物の共用は感染症のリスクを高めることにもなります。

マスク着用・咳エチケット



感染症の予防のため、マスクを着用し、咳エチケットを守りましょう。夏場は定期的にマスクを外して休憩し熱中症に気をつけましょう。

こまめに体調チェック



体調の変化を継続的にチェックしましょう。変化があったら避難所の運営者に知らせましょう。

普段の備え

▶ 災害情報の入手

災害時は様々な情報が錯綜し、混乱を招く場合があります。大切なのは「最新の正しい情報」を入手し、行動することです。普段から気象庁が発表する気象情報に注意し、いざという時に備え、どのような情報がどのようにして受信できるのかを確認しておきましょう。

テレビ・ラジオ SNS・インターネット

様々な媒体を利用して情報を入手しましょう。また、テレビの地デジ放送でも情報が入手できます。テレビリモコンの「dボタン」を押してください。

防災行政無線 (戸別受信機・サイレン) スピーカー

むかわ町役場では、いち早く正確な災害情報の伝達手段の確保を目的として、防災行政無線を整備しています。
※電話でも確認できます
0145-42-3144

エリアメール (NTTドコモ) 緊急速報メール (au・ソフトバンクなど)

携帯電話・スマートフォンをご利用の方に、緊急を要する気象・地震・津波などの情報が一斉に配信されます。
※受信は無料ですが、各種対応機種による設定をお願いします。

▶ 自ら情報をキャッチ

防災に関する情報はテレビやラジオのほか、以下のホームページやSNSなどからも入手できます。

むかわ町の情報 むかわ町からのお知らせや、防災情報、各種行事の情報などを発信しています。

ホームページ

<http://www.town.mukawa.lg.jp/>



LINE

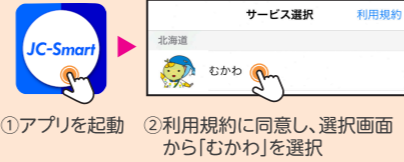
ID: @mukawa



スマホアプリ 「むかわ町地域情報」



アプリ「JC-smart」をダウンロードして「むかわ」を選んで使います。



①アプリを起動 ②利用規約に同意し、選択画面から「むかわ」を選択

Yahoo! 防災速報アプリ

アプリをダウンロードするとむかわ町の気象情報、避難情報、河川情報等を知ることができます。



for iPhone/iPad



for Android

NHKニュース・防災アプリ

NHK公式のアプリ。マップ上で雨雲や台風、河川情報をチェックでき、ライブ放送の同時提供もあります。



for iPhone/iPad



for Android

防災情報全般 (警報・注意報/地震/竜巻など)

北海道防災ポータル
<http://www.bousai-hokkaido.jp/>



気象情報

室蘭地方気象台気象庁
PC・スマホ版
<https://www.jma-net.go.jp/muroran/>
気象庁サイト スマホ版
<https://www.jma.go.jp/jma/>



道路情報

北海道地区 道路情報
<http://info-road.hdb.hkd.mlit.go.jp/RoadInfo/>



防災情報

国土交通省 防災情報提供センター
<https://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>



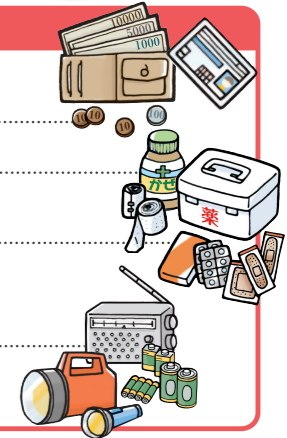
▶ 非常時の持ち出し品・備蓄品

いざという時のために下記リストを参考に準備しましょう。また、備蓄品の飲食物は保存期限に注意しましょう。

避難時は両手が使えるリュックザックが便利!!

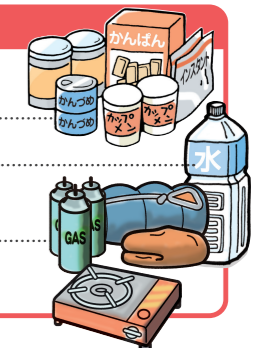
非常時の持ち出し品 (すぐに持ち出せるように、リュックなどにまとめておきましょう。)

- 貴重品 現金 キャッシュカード 預金通帳 印鑑 免許証 健康保険証
- 非常食 飲料水(ペットボトル) 栄養補助食品 菓子類
- 応急医薬品 お薬手帳 持病薬 常備薬(風邪薬・傷薬など) *感染対策用に必ず! ばんそうこう 消毒液 マスク 除菌シート 体温計
- 生活用品 衣類 防寒着 雨具 タオル ティッシュ(ウェット) 運動靴 軍手 帽子又は防災ずきん ライター ビニール袋 生理用品 ラップフィルム
- その他 携帯ラジオ 携帯電話 充電器 懐中電灯 ホイッスル 電池 筆記用具 メガネ 思い出の品



備蓄品 (3日以上の備蓄を心がけましょう。)

- 食料・飲料水 飲料水(1人1日3リットル) 缶詰やレトルト食品 栄養補助食品 インスタント食品
- 燃料など 卓上コンロ ガスボンベ 固形燃料
- 生活用品 毛布 寝袋 洗面用具 鍋 やかん パケツ トイレ用ペーパー 携帯トイレ 使い捨てカイロ
- その他 ビニールシート 新聞紙 ろうそく ガムテープ ロープ ポリタンク



赤ちゃんや介護を必要とするお年寄りなどがある場合は、次のようなものも必要です。

赤ちゃんがいる場合

- ミルク、ほ乳びん
- 離乳食、食器
- お尻拭き
- 帽子、防寒着
- バスタオル
- ガーゼハンカチ
- 乳幼児用の薬
- 母子健康手帳
- 消毒剤
- 紙おむつ
- おんぶひも
- 衣類(着替え)

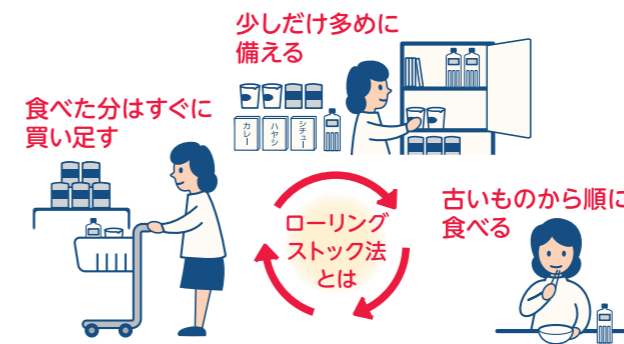
介護を必要とするお年寄りがいる場合

- おかゆなどの食料品(介護食)
- 障害者手帳、介護保険証など
- 紙おむつ
- 帽子、防寒着
- 衣類(着替え)
- 介護用品
- お尻拭き
- 常備薬

*介護の状態などに応じて備えてください。

ローリングストック法の実践

日常の食材のストックと災害用の食料品とを分けずに、常に少し多めに一定量の食料品を家に備蓄しておく方法をローリングストック法と言います。ローリングストック法のポイントは、日常生活で消費しながら備蓄することです。食料等を一定量に保ちながら、消費と購入を繰り返すことで、備蓄品の鮮度を保ち、いざという時にも日常生活に近い食生活を送ることが目的です。



①古いものから使うこと

備蓄する食料が古くなってしまわないよう、必ず一番古いものから使うようにしましょう。新しいものを奥に配置し、手前の古いものから使っていく、というように、備蓄方法のルールを決めて上手に循環させることが大切です。

②使った分は必ず補充すること

ストックしているものはいつ食べても構いませんが、消費した分は必ず買い足すようにしましょう。補充を怠ったタイミングで災害が来る可能性もあります。消費した分の補充は必ず直後に行いましょう。